

行事／取組名称	山形でのプレチャレンジ「米沢興譲館高等学校：クリスマス・レクチャー」		
担当者	近藤泰洋		
開催日時・期間	平成 29 年 12 月 15 日（土） 13 時 10 分～16 時 10 分	会場	山形県立米沢興譲館高等学校
主催	J P h O	後援	
共催			
協賛			
概要			
興譲館高校からは、1 名 2007 年の物理チャレンジで、2008 の物理オリンピック日本代表候補に選出されている。しかし、以後は山形県からの第 1 チャレンジ参加者は東北では最小である。今後山形県からのチャレンジャーが増加することを期待して、今回のプレチャレンジを行った。講義時間は 90 分のため、第 1 チャレンジの説明と実験例、実験レポートの書き方を主題とした。			
参加者 教員	高校生	中学生	
教員 3 名	91 名（高 2）		

報告事項
米沢興譲館高等学校は今年初めて物理や生物を主としての「クリスマス・レクチャー」を開催しました。物理では国際物理オリンピックにつながる全国物理コンテスト「物理チャレンジ」の紹介を行わせて頂いた。初めに物理オリンピック代表選手選抜に至る行程を紹介し、第 1、第 2 チャレンジの利点を説明した。後半では、第 1 次予選としての「第 1 チャレンジ」を中心として、理論問題コンテストの概要説明と例題の紹介を始めに行い、次にこれまでの第 1 チャレンジ実験レポート課題とレポートの書き方、判定基準の説明をした。後半の 30 分間に、実習として重力加速とその誤差を求めることを行った。 プログラム 13:10 ～ 13:20 開会 13:20 ～ 16:00 講義・実習 16:00 ～ 16:10 閉会 実習として実験を行ったが、参加学生数 91 名と多いので、代表として 3 名の学生を選んでもらい、「重力加速度 g を鉄球の自由落下速度測定により求める実験」を行ってもらった。但し、測定結果の値は、測定のとど表示してもらい、全員が各自グラフ作成と g の算出（誤差を含めて）を行うようにした。参加人数が多いときは、このように、実験は少数が行うが、結果は全員が利用するという方法にはメリットがあると考えられる。 高校側が学生に対し物理チャレンジへの積極的な参加を促して頂けることを期待したい。